

区分別科目	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連		時間数 （法定）	30（29）
特定行為名	(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更 (B) 非侵襲的陽圧換気の設定の変更 (C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 (D) 人工呼吸器からの離脱			
担当指導者	福井 道彦（医師）三木 健児（医師）碓井 太雄（医師）山西 正芳（医師）川上 敦司（医師）自閑 昌彦（医師）清水 優（医師）			
学ぶべき事項	（共通）呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連の基礎知識	1. 人工呼吸の目的 2. 人工呼吸療法の適応と禁忌 3. 人工呼吸療法に関する局所解剖 4. 人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理 5. 人工呼吸療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメント 6. 人工呼吸器管理の適応と禁忌 7. 人工呼吸器のメカニズム（種類・構造）		
	（A）侵襲的陽圧換気の設定の変更	1. 侵襲的陽圧換気の設定の目的 2. 侵襲的陽圧換気の設定条件の変更の適応と禁忌 3. 侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策等） 4. 侵襲的陽圧換気の選択と適応 5. 侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法		
	（B）非侵襲的陽圧換気の設定の変更	1. 非侵襲的陽圧換気の設定の目的 2. 非侵襲的陽圧換気の適応と禁忌 3. 非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策等） 4. 非侵襲的陽圧換気の設定条件の選択 5. 非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法		
	（C）人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	1. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の目的 2. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の適応と禁忌 3. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静に伴うリスク（有害事象とその対策等） 4. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の選択と投与量 5. 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の方法		
	（D）人工呼吸器からの離脱	1. 人工呼吸器からの離脱の目的 2. 人工呼吸器からの離脱の適応と禁忌 3. 人工呼吸器からの離脱に伴うリスク（有害事象とその対策等） 4. 人工呼吸器からの離脱の方法		

研修概要	(共通) 呼吸器 (人工呼吸療法に係るもの) 関連の基礎知識	人工呼吸器の必要性を理解し、安全に人工呼吸療法を実践できる看護師を養成する。
	(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更	医師の指示の下、手順書により身体所見 (人工呼吸器との同調、一回換気量、意識レベル等) 及び検査結果 (動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO2) 等) が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し酸素濃度や換気様式、呼吸回数、一回換気量等の人工呼吸器の設定条件を変更する。
	(B) 非侵襲的陽圧換気の設定の変更	医師の指示の下、手順書により、身体所見 (呼吸状態、気道の分泌物の量、努力呼吸の有無、意識レベル等) 及び検査結果 (動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO2) 等) 等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) の設定条件を変更する。
	(C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	医師の指示の下、手順書により、身体所見 (睡眠や覚醒のリズム、呼吸状態、人工呼吸器との同調等) 及び検査結果 (動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO2) 等) 等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、鎮静薬の投与量の調整を行う。
	(D) 人工呼吸器からの離脱	医師の指示の下、手順書により、身体所見 (呼吸状態、一回換気量、努力呼吸の有無、意識レベル等)、検査結果 (動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO2) 等) 及び血行動態が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、人工呼吸器からの離脱 (ウィーニング) を行う。
到達目標	1. 医師の指示の下、手順書により医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し侵襲的陽圧換気の設定の変更ができるようになる。 2. 医師の指示の下、手順書により医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し非侵襲的陽圧換気の設定の変更ができるようになる。 3. 医師の指示の下、手順書により医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し人工管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整ができるようになる。 4. 医師の指示の下、手順書により医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し人工呼吸器からの離脱ができるようになる。 5. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。 6. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。 7. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。	
評価方法	講義 : e ラーニングの受講及び講義確認テスト	
	演習 : ペーパーシミュレーションによるグループワークを評価表に基づいて評価	
	実習 : 評価表 (Mini-CEX) を用いた観察評価	
	試験 : e ラーニング上で筆記試験を実施	
研修内訳	講義 (21 時間)	視聴時間 45 分 + 講義確認テスト 15 分
	演習 (8 時間)	視聴時間 (イントロ) 5 分 + グループワーク 45 分 + 視聴時間 (解説) 10 分 ※e ラーニング教材を活用して講義室で行う
	実習	実習は指導者の下、宇治徳洲会病院で行い、各特定行為ごとに最低 5 症例経験する ※各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。
	試験 (1 時間)	科目修了試験 (筆記試験) 1 時間 (共通) 呼吸器 (人工呼吸療法に係るもの) 関連の基礎知識 0.2 時間

		(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更 0.2 時間 (B) 非侵襲的陽圧換気の設定の変更 0.2 時間 (C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 0.2 時間 (D) 人工呼吸器からの離脱 0.2 時間
--	--	---

授業計画					
科目名	回	研修方法 /評価	授業 形態	学ぶべき事項	担当指導者
呼吸器 (人工呼吸療法に係るもの) 関連	第 1 回	講義	放送	(共通) 呼吸器 (人工呼吸療法に係るもの) 関連の基礎知識	
	第 2 回			人工呼吸療法の目的、適応、禁忌	
	第 3 回			人工呼吸療法に関する局所解剖、人工呼吸療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメント	
	第 4 回			人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理	
	第 5 回			人工呼吸器管理の適応と禁忌	
	第 6 回			人工呼吸器のメカニズム (構造と種類)	
	第 7 回			侵襲的陽圧換気の設定の目的、選択と適応	
	第 8 回			侵襲的陽圧換気の設定条件の変更の適応と禁忌	
	第 9 回			侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク (有害事象とその対策等)	
	第 10 回	演習	面接	侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法	
	第 11 回			侵襲的陽圧換気の設定の変更 (ペーパーベシエント) (1)	
	第 12 回			侵襲的陽圧換気の設定の変更 (ペーパーベシエント) (2)	
	第 13 回	講義	放送	非侵襲的陽圧換気の設定の目的、設定条件の選択	福井 道彦 三木 健児 碓井 太雄 山西 正芳
	第 14 回			非侵襲的陽圧換気の適応と禁忌	
	第 15 回			非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク (有害事象とその対策等)	
	第 16 回			非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法	
	第 17 回	演習	面接	非侵襲的陽圧換気の設定の変更 (ペーパーベシエント) (1)	川上敦司 自閑 昌彦 清水 優
	第 18 回			非侵襲的陽圧換気の設定の変更 (ペーパーベシエント) (2)	
	第 19 回	講義	放送	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の目的	
	第 20 回			人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の適応と禁忌	
	第 21 回			人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静に伴うリスク (有害事象とその対策等)	
	第 22 回			人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の選択と投与量、鎮静の方法	
	第 23 回	演習	面接	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 (ペーパーベシエント) (1)	
	第 24 回			人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 (ペーパーベシエント) (2)	
	第 25 回			人工呼吸器からの離脱の目的	
	第 26 回	講義	放送	人工呼吸器からの離脱の適応と禁忌	
				人工呼吸器からの離脱に伴うリスク (有害事象とその対策等)	

	第 27 回				人工呼吸器からの離脱の方法	
	第 28 回	演習	面接		人工呼吸器からの離脱（ペーパーペイシエント）（1）	
	第 29 回				人工呼吸器からの離脱（ペーパーペイシエント）（2）	
呼吸器 （人工呼 吸療法に 係るも の）関連		実習	面接	（A）侵襲的 陽圧換気の 設定の変更 （B）非侵襲 的陽圧換気 の設定の変更 （C）人工呼 吸管理がなさ れている者に 対する鎮静薬 の投与量の調 整 （D）人工 呼吸器からの 離脱	侵襲的陽圧換気の設定の変更（見学） 非侵襲的陽圧換気の設定の変更（見学） 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整（見 学） 人工呼吸器からの離脱（見学） ※患者に実技を行う前にモデル人形等を利用し、技術訓練を行う	
					侵襲的陽圧換気の設定の変更の実施 非侵襲的陽圧換気の設定の変更の実施 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整の実 施 人工呼吸器からの離脱の実施	
	第 30 回	試験	試験	科目修了試験（筆記試験）		

参考図書・資料等	全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード
備考	* e ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う（祝祭日を除く）。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学習進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。 * 科目修了試験（筆記試験）は、各時間終了後に行われる確認テスト及び実習で学習した範囲より出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。